

1:1 アハブの死後、モアブがイスラエルに背いた。

1:2 アハズヤは、サマリアにあった彼の屋上の部屋の欄干から落ちて重体に陥った。彼は使者たちを遣わし、「行って、エクロンの神、バアル・ゼブブに、私のこの病が治るかどうか伺いを立てよ」と命じた。

1:3 そのころ、【主】の使いがティシュベ人エリヤに告げた。「さあ、上って行って、サマリアの王の使者たちに会い、彼らにこう言え。『あなたがたがエクロンの神、バアル・ゼブブに伺いを立てに行くのは、イスラエルに神がいないためか。』」

1:4 それゆえ、【主】はこう言われる。あなたは上ったその寝台から降りることはない。あなたは必ず死ぬ。』」そこでエリヤは出て行った。

1:5 使者たちがアハズヤのもとに戻って来たので、彼は「なぜおまえたちは帰って来たのか」と彼らに尋ねた。

1:6 彼らは答えた。「ある人が私たちに会いに上って来て言いました。『自分たちを遣わした王のところに帰って、彼にこう告げなさい。【主】はこう言われる。あなたが人を遣わして、エクロンの神、バアル・ゼブブに伺いを立てるのは、イスラエルに神がいないためか。それゆえ、あなたは上ったその寝台から降りることはない。あなたは必ず死ぬ。』」

1:7 アハズヤは彼らに尋ねた。「おまえたちに会いに上って来て、そんなことを告げたのはどんな男か。」

1:8 彼らが「毛衣を着て、腰に革の帯を締め

た人でした」と答えると、アハズヤは「それはティシュベ人エリヤだ」と言った。

歴代の王たちが主に従わずに、イスラエルを滅びに向かわせたことが記されています。主のさばきが以下に正当なものであったかが明らかです。

アハズヤは欄干から落ちて病気になったとあります。信仰の浅い人の一つの特徴は、問題が起きたときに主を疑うという点にあります。そして神様から離れてしまう場合もあるのです。それはまさにこの悪王アハズヤと一緒に、愚かな姿です。問題が起きたのは、主に何か深い考えがあったからで、私たちは尚更主に近づいていく必要があるのです。

健全な信仰者にとっては、問題・試練こそ主に近づくチャンスなのです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

